



笹木 副議長



長谷川 議長



長名 議員

4月号 April 特集

平成27年の統一選挙から2年が経過し、任期4年の折り返しの年を迎える。残りの2年間に向け、新十津川町議会として何をすべきか、初の議員全員による討論会を開催しました。全議員がそれぞれ2年間を振り返り、評価と課題を発言。今回は、その中から、正副議長と各常任委員会の委員長の発言を取り上げて掲載しました。

議員討論会

新人5人を加えた新たなチームとしての議会についてどう考えるか

長谷川議長

町民の思いを受け止め、活動するにはやはり、大きな力で取組む必要があることからチーム力を重視して進めてきた。5人の新人議員の方々にも、重要な役割を担っていただきたい、先輩、後輩というのではなく、仲間という気持ちで進めてきた。

青田委員長

住民と向き合う時のチームは良いですが、基本的には議会は個人だと思う。会話力、書く力、表現力を磨き、議員個々のレベルアップに向け努力した成果がチーム力につながる。印象的だったのは、鈴井議員が反対討論したこと。町側は想定していなかった。影で言っても意味がなく、勇気を持って行動し、その繰り返しが次につながることに気が付くことが大切。小さなことで疑問をぶつけていきながら、みんなが成熟していくと自然と連携で

きて、その繰り返しが必ず議会の成長につながっていく。

西内委員長

住民に向かう時はチーム、行政側に働きかけるときは個人でという風に受け止めたが、チームと言つても、仲良しチームではなく、住民の代表として住民の意見を政策につなげていくためのチームだと思う。議員間で討論をして、作業や話し合いなどイメージ的なものを煮詰め具現化することができないと、「議会はチームです」とは言えない。

安中委員長

議員間で討論が足りない、正にそう思う。今日の討論会がその初日と感じる。チームにこだわると、個々の思いが埋没することも考えられる。日常の議員としての個々の考え方をしつかり持つことが、議員としての使命だと思う。チームを強調しすぎると、討論の場でしり込みしてしまう。そこは、思い切り言えるようにしていかないとダメだ。それが議会のチームとしての成

果だと考える。

言葉の受け取るニュアンスがそれ違うようだが、私が思うチームは議会としてやることをみんなでやりましょうということ。議員としてやることは、それぞれにやつてもらう。もう一つは、議会とは議論の場であるから、それぞれの思いを戦わせて、最終的に議会として一つにまとめていき、行政に投げかけていく。その場が議員協議会や、常任委員会などとなる。特に議員活動の中では常任委員会活動を大切にしているなければならない。

笹木副議長

チームとして横のつながりを大切にする意味で親睦も無意味なものではない。しかし、それに埋没してしまうと良くない。ただ、相手を知らないと気さくな話もできない。誰とでも、どんな話でも出来るようになることが大切。親睦の場も含め、日ごろから議論するベースを作れば自分の意見もしっかり言えり、聞けるし、それがこれから大事になってくる。

長谷川議長